

## 中島地区タウンミーティング(要約)

テーマ：中島地区の活性化について

平成27年10月25日（日曜日）

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は、日曜日の午後ということで皆さん何かとご予定があり、お忙しい中、タウンミーティングにご参加いただきありがとうございます。今日の開催にあたりまして、中島地区まちづくり協議会の濱田会長さんをはじめ、役員の皆さま方のご協力をいただきました。本当にありがとうございます。このタウンミーティングですが、私が就任させていただいてから始めさせていただいています。市役所で待っていて、皆さんが言いに来てくれるのを待っているほうが楽ですが、果たしてそれでいいのでしょうか。松山市は、旧松山・旧北条・旧中島を合わせて41地区に分かれますが、その地区ごとに我々が出向かせていただいて、そして皆さんの声を聞かせていただくという思いからタウンミーティングを始めました。市長の任期は1期4年、月にすると48カ月ですから、松山市内は41地区に分かれていますので、1カ月に1地区のペースで回っていけばいいと思っていたのですが、このタウンミーティングは、魅力は伸ばす、課題は減らす、できることからすぐ市政に反映をするというタウンミーティングですので、おかげさまで好評になりまして、2年2カ月に41地区すべてを回り終えて、1期4年で二巡りをいたしました。そして、2期目に入らせていただいても、このタウンミーティングは継続をしていこうと考え、地区別だけではなく、新たに職業別や世代別のタウンミーティングを加えることになりました。例えば、子育て世代の方に集まっていた子育てに関するタウンミーティングをすれば、これはまだできていないのですが、シルバー世代の人生の先輩方に集まっていた世代別のタウンミーティングも考えているところです。今日も、いい中島づくりに向けて皆さんと前向きな意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 それでは、テーマ趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】 本日のテーマですが、まちづくり協議会さんともご相談させていただく中で、「中島地区の活性化について～移住定住の促進と受け入れ体制の充実～」を主題とさせていただきました。松山市もすでに人口減少に入っています。特に島しょ部の皆さんは感じていらっしゃると思いますが、過疎化と高齢化の進行が著しいことは我々も十分認識しています。でも、島は人を呼び寄せるだけの魅力をたくさん持ち合わせています。平成

22年に「しまはく」をしたことで、皆さんの意識の共有が図れたのではないのでしょうか。現在、松山市では島を元気にするために構想計画を立てています。それが「愛ランド里島構想」ですね。島の中の人にも島の外の人にも愛してもらえるようにしましょう、ということで「愛ランド」。「離島」は離れた島と書くともどうしてもマイナス思考になってしまいますから、ふるさとも感じてもらえる島にしましょうということで「里島」、平成24年3月に「愛ランド里島構想」と称しまして、島の皆さんと私たちが島の魅力を生かした取り組みを行っていることはご存知のとおりです。これまで、中島でタウンミーティングを2回させていただいたご意見のうち進捗のあった2件についてご報告させていただきます。「中島東小学校を有効活用して地域福祉の拠点整備をしてほしい」というご意見を1回目のタウンミーティングでいただきました。場所は中島東小学校ではなく、中島支所を改築させていただいて、2階に社会福祉協議会とシルバー人材センターの事務所、3階に保健センターの中島分室事務所と地域包括支援センターなどを集約しまして福祉活動の拠点整備と機能強化を図りました。次に、お試し移住です。タウンミーティングで「移住定住の促進のために教員住宅を市営住宅に転用してほしい」というご意見をいただいていた。今日はまさにこのテーマに関わります。市営住宅への転用ではありませんが、神浦の教員住宅を4棟改装しました。島に移住を希望される方にお試しで住んでいただこうと一昨日まで公募を行っていました。詳しくは、この後に担当課長が説明いたします。以上の2件が前回の意見対応報告です。私がいつも申し上げておりますのは、市内41地区にはそれぞれの魅力、宝がありますので、41地区が同じようなまちづくりをするのではなく、地域の方が一番魅力をお感じだと思いますので、地域の方が望む、皆さんが主体となったまちづくりを進めていきたいと思っております。やはり行政だけでやれることには限りがありますから、皆さんと一緒に前に向かって進んでいきたいと思っておりますし、今日は有意義な意見交換ができればと思いますのでよろしく願いいたします。

【司会】 次に、これまでの本市の島しょ部での取り組みについて、担当課長からご説明いたします。

【地域振興担当課長】 皆さん、こんにちは。地域振興担当課長の吉田でございます。前のスライドを使ってご説明させていただきます。松山市では島しょ部の持続的な発展と活性化の指針となる「愛ランド里島構想」を平成24年3月に策定しています。この構想では、対象期間を平成33年までの10年間としまして、「暮らしやすい島」を目指すこと、そして「市

民の第二のふるさと」を目指すこと、この2本を柱に「島びとが輝くまちづくり重点プロジェクト」として8つの取り組みを掲げています。その中で、本日の主題でございます「移住定住の促進と受け入れ体制の充実」に関連する具体的な取り組み事例をいくつかご紹介いたします。まず、暮らしやすい島を目指すための取り組みですが、中でも島民の皆様から特にご要望が多かったのが海上交通の利便性の向上です。島で暮らしていくためには当然不可欠な海上交通ですが、通勤・通学や通院など日常的に利用する場合にはどうしても運賃の負担が大きくなってしまいます。そこで、松山市では、さまざまな船賃の補助制度を設け負担軽減に努めています。例えば、島外に通勤・通学されている方、医療機関の受診を目的に船を利用される方などを対象に運賃の一部補助を実施しています。続きまして、明日を担う人材の育成ですが、東京で開催されています「しまづくり人材養成大学」。これには毎年1人の島民の方にご参加いただいています。また、毎年11月に東京で開催される全国の島の祭典「アイランダー」や移住希望者向けのフェアなどにも島の方と一緒にPRブースを出展することで、情報交換やネットワークづくりにもつなげているところでございます。次に、2つ目の柱である島外に住む方にも第二のふるさととして島しょ部を感じていただくための取り組みを説明いたします。まずは、定住促進に向けた取り組みといたしまして、神浦地区の教員住宅。これを島外の方が定住先を見つけるまでの足掛かりとして、1カ月単位で最長1年間ご利用いただけるお試し移住施設へと改修いたしました。この施設を利用していただくことで、島の生活を実際に体験し、島の皆さんと交流していく中で定住先を探していただけたらと考えています。12月からの入居に向けて、10月23日まで申し込みを受け付けましたところ、大阪在住の方から1件お申し込みをいただきまして、11月3日に神浦地区の総代さんにもご同席いただき面接を行う予定です。ほかにも数件問い合わせがありました。が、年度途中ということで、なかなか春先の卒業や就職などのシーズンにタイミングがあわなかったことから満度の申し込みはございませんでしたが、今後も継続して周知活動を行い、随時入居者募集をしていきたいと考えています。続きまして、島しょ部の独身男性を対象とした婚活事業、こちらも平成25年度から実施しています。25年度、26年度の2年間で15組のカップルが成立して、うち2組がめでたく結婚し、2組とも中島で生活されています。それと、10月31日、11月1日には三津浜と興居島を舞台といたしまして、都市部の女性との松山婚ツアーを行うことにしています。男女10名ずつの定員ということで募集していましたが、女性は39名のお申し込みがありましたので、急遽定員を男女とも20名

に倍増し実施いたします。多くのカップルが誕生することを期待しています。最後に里島ツーリズムの推進についてです。松山里島ツーリズム連絡協議会では「しまはく」で生まれた島の魅力ある体験メニューなどを継続して実施し、多くのお客様に島の魅力に触れていただくことで、島のファンやリピーターを増やして島の活性化につなげています。昨年度は「しまのわ2014」の相乗効果もございまして、新たなメニューを加えた80もの体験メニューが実施されまして、8千人以上もの方にご参加をいただきました。これは体験メニュー数、参加者数ともに過去最高となっています。今後、新たなメニューも加えながら島を訪れるお客様の増加に取り組んでいきたいと考えています。以上、主な取り組みについてご説明をいたしました。この後皆様のご意見をお伺いし、さらなる島の活性化に取り組んでまいりたいと考えています。よろしくお願いたします。

**【男性】** いつもお世話になっています。まず、野志市長をトップにいつも中島地区を大切にしてくださいまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。中島地区は過疎化が進んでいますので、移住・定住の促進ということで、本日はテーマを設けていただいています。今、空き家が全国的に問題になっているわけですが、その対策としまして、空き家をお持ちの方とそれを借りたいという方がいると思いますので、借りたい人と貸したい人とのマッチングのやり方などにつきまして、市で今後どのような取り組みを考えているのかをご質問させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

**【市長】** わかりました。空き家のマッチングですね。空き家がある。借りたい人がいる。うまくマッチするといいいのでマッチングといいますが、これには動きがありますので担当からお願いします。

**【地域振興担当課長】** 現在、空き家が増加していますので、「里島空き家バンク」を構築して、空き家を移住者の受入先としてうまく利用できないかを考えています。この里島空き家バンクですが、公募で選んだNPO法人「農音」さんに業務を委託しまして、まずは忽那諸島9島すべてを対象にいたしまして、来月から、順次農音の調査員が回りまして、空き家の現地調査を開始したいと考えています。この調査で、利用できそうな空き家を抽出いたしまして、本当に貸し借りや売買ができるのか、短期間でも貸し出しができないか、こういった細かな情報を集めたいと考えています。そして、来年の3月末までにホームページを立ち上げまして、これらの情報を公開することにしていきます。農音さんは島で生活をして活動されている団体でございまして、このホームページを見て問い合わせがあった場

合には、いろいろな相談に応じてもらったり、実際に現地を案内していただいたり、家主の方とのマッチングの機会を設けたりと、細やかな対応をお任せしたいと考えています。この空き家バンクは、平成25年度から三津地区ですでに運営しています。店舗や居住用など、現在までに合わせて13件の入居につながっています。お店の開店にもつながるなど、地域の活性化に貢献していますので、島しょ部でも移住・定住に効果を発揮し、うまく運営できるように考えていきます。

【男性】 移住・定住はしていただくと大変ありがたいですけど、やはり移住・定住するためには生活しなくてははいけませんよ。極端にいうと、年金者を呼べば生活費を稼がなくてすむわけですが、若い人が生活するためには生活費を稼がないと住めませんよ。現在、私の住んでいる島で生活費を稼ごうと思っても、今やっていることは漁業、農業です。農業はどんどん廃園が進み、漁業にしても子どもたちを育てて大学に行かせるような商売状況にはなりません。空き家を調べていただいて、それを旅館なり何なり貸して、観光に来ていただいたらどうでしょうか。親子で1日2日はお風呂もあって、自分たちで物も作れる台所もある施設に泊っていただく。部屋をきれいにすれば、家族で来て1日遊んで帰っていただくこともできるので、あそこは楽しいよということを周知できると、もっと違う雰囲気が出てくるのではないかと思います。移住・定住するまでにはちょっと時間がかかるし、生活をどうするかということが最初になると移住・定住は無理なような気がします。そういう旅館的なものを手入れしていただけるかどうか、市としてそういう余裕があれば移住・定住ではなくて、空き家をお貸しすることを考えていただくことはできないかなということで、皆様のご意見をお聞きしたいです。

【地域振興担当課長】 今、全国的に漁家民泊とか農家民泊といった形で、体験型のツーリズムが非常に流行っています。島しょ部に関しても、先ほどご説明いたしましたツーリズム連絡協議会さんで、色んな体験メニューを出していただいています。そういった需要は全国的にも多くなってきています。実は来年度以降に色んなまちの魅力や都市部にはない魅力を発見しようというようなことも、今検討しています。そうした中で、どういった形で空き家が使えて、民泊などに利用できるかを考えていきたいと思いますが、何しろ体験型になりますと、島民の皆さまのご協力が必要になってきますので、地元の中に入って、いろいろと協議させていただきながら考えていきます。

【市長】 まず、農業、漁業とおっしゃいました。ありがたいことに、島

で「紅まどんな、どんなですか。」と聞いたら、「おもしろいな。」と言  
っていただくご意見があって、私も東京の方にセールスをさせていただ  
いて、非常に市場の反応もいいので、紅まどんなはありがたいなと思っ  
ています。紅まどんなの取り組みで、私が東京の大田市場に行きまして、セ  
ールスをしているところがあります。後でどれくらい広がっているかお伝  
えできたらと思いますが、東京の大田市場で紅まどんなのセールスをして  
いるところが3分ぐらいにまとまっているので、ご覧いただけたらと思  
います。

(映像 約3分)

今見ていただいたようなことをやっています。全国でいうとどこのデ  
パートさんで扱っていただいても非常にありがたいのですが、今、デパート  
のランキングで一番売り上げがいいのは、三越伊勢丹グループです。松山  
にも三越がありますが、松山三越で働いていた方が千葉に転勤になりまし  
て、松山の紅まどんながよかったから、千葉でも扱いましょうということ  
で、関東圏では千葉の三越だけで取り扱いが始まりました。東京の大田市  
場は全国の中で一番の野菜・果物の取扱量を誇る場所です。全国から市  
長、町長や知事がやってきてセールスをしますが、セールスは誰にも負け  
ないつもりです。今、おかげさまで、各地の市場の方も見に来られる状態  
になっています。この間、セールスをしていると、ビデオカメラをまわし  
ている人がいまして、どこの人かなと思って調べてみたら、千葉県  
の方でした。千葉県の知事は森田健作知事でございます。森田健作知事  
が参考にしてセールスするんでしょうね。そのように、役所関係でも広ま  
っている状況ですが、紅まどんなの集中プロモーション、去年がいくらで  
したかね。

【農林水産課長】 平成26年度は、集中プロモーションの回数が延べ  
235回で、紅まどんなの年間の売上額は540万です。

【市長】 額も飛躍的に伸びています。当初30万だったのが、今は集中  
プロモーションのときだけで540万。18倍まで広がってきています。  
ものが悪くなると急速に評判が悪くなるので、市場からは「いいものを生  
産していただければこれからも広がりますよ。」と言っていただいています  
ので、皆さんと一緒に、いいものを生産し続けていきたいと思  
います。12月の紅まどんな、1月のせとか、そして、4月・5月のカラマ  
ンダリンと年に3回行っています。シーズンの最初に行って、苦勞と工夫  
を理解してもらって、いい値段を付けてもらう。いい値段でひっぱり  
理解されないで悪い値段が付いてしまって、悪い値段でシーズン中ひっ  
ぱられるより、当初にプロモーションしていい値段を付けてもらいたいので、

これを年に3回ずつ行っています。これが農業の話ですね。今、デパートだけでなく、スーパーでも取り扱いを増やしてもらうようにいろいろと交渉しているところです。そして、修学旅行で中島に来てくれる方が増えています。来ていただければ、お金を落としていただけのわけです。平成18年度の松山への修学旅行が4校だったのですが、去年は62校まで増えています。およそ1万人が来ていますが、中島でみかん狩りの体験をするとか地引網をするとか、そういうことでできるだけ中島にもお金を落とさせていただこうとしています。島の活性化には色々な方法があると思います。農業のバックアップをする。修学旅行に来ていただく。そして、耕作放棄地対策や移住・定住の促進もそうだと思いますし、色々な方向でやっていきたいと思いますので、「いや、市長。そう言うてもね。」「いや、市役所はこうやりよるけど、わしらとしてはこうやってもろたほうがあええんじやけどな。」というところを現場の皆さんからお話をさせていただければと思いますし、「いや、実はこうなんですよ。」といった意見交換もできればと思いますので、よろしくお願いします。

【男性】 いつもお世話になっています。市長には、いつも中島のことに気を遣っていただきありがとうございます。さっきちょっとだけ気になったのですが、カラマンダリンはオーケーですが、紅まどんなはJAの組合員しか使えないので、この中に組合員以外の人がいたら、「わしらは使えんがあ。」ということで、販売ができない。ほかの種類については問題がないとは思いますが、これは農家の方のちょっと気になった点。今日、実はここに来る前に読んだ愛媛新聞に定住について載っていました。一番問題になるのは収入ということで、これは50%になっていました。定年を過ぎて移住される場合は、ある程度の年金を担保に生活できる。しかし、中堅及び子どもさん連れ、若いご夫婦については、仕事を中心に定住を考えられると思う。さっき言ったように、素人が来ていきなり明日から農業するからといって生活ができますか。年収500万も600万もいっぺんに稼げますか。それは、ちょっと難しいです。そこで、女の人がどこかに勤めに出れば、生計が成り立つと思います。しかし、その女の人がパートに出るといっても、ここの島では、特老、病院などのちょっとした仕事ぐらいしかありません。前からみんなが勤め先があつたらいいと希望しているので、行政にお願いしたいです。それには、島だから難しい点は多々あり、企業誘致の努力もされているんだろうけれども、そんなに簡単にこのリスクのある島に、企業が誘致できるとは思えない。その希望を捨ててはいけなけれども、行政として、一生懸命していると思いますが、勤め先

を何とか考えてください。また、島から出ていかんような工夫もしてほしいと思っています。定住された方は、みなそれぞれパート的な仕事には就いているし、3組か4組は農家で頑張っている。しかし、今さっき言ったように大学へ行かせるような所得はまだ上がってないような状態。定住促進と言っても、家へ住んで明日から稼ぎがないと生活に困るので、そこが一番だと思う。そこらを何とか真剣に考えてもらいたい。そうすれば人口も増えるし、商工会も上を向いてくる。商工業者も頑張れる。人口が減る中で、マイナスの影響が出てきているから、そこらをよろしく申し上げるとともに、私らも相談しながらよろしければ協力もいたします。以上、私の意見です。

【市長】　すぐに農業で稼げるわけではないので、こういう取り組みをしたいんですけど、農林水産課から話がありましたよね。時期的に言える部分と言えない部分があると思いますが。

【農林水産課長】　今おっしゃられたとおりです。特に、中島地域は第1次産業が主な産業です。移住・定住しても第1次産業で生活できるようにするために、現在、色んな手を打っています。国の制度で、青年就農給付金というのでも聞かれたことがあると思いますが、年間150万円で45歳未満の人を農業に導くというのや、ハウスなどの補助が今もあります。トップセールスもそうです。単価を少しでも上げようとそういう努力を重ねながら今やっているところでございます。

【市長】　紅まどんなの名前の話はよく存じ上げています。皆さんが紅まどんなという名前を使えればというお話をお聞きしています。「愛媛果樹試験場28号」が本名で一定の条件をクリアしたものが「紅まどんな」の名称を使えるというのは、存じ上げています。東京に出張に行かせてもらっているのですが、市場の感覚からすると、一番気にされるのは「品質にぶれはない」ということです。一番に心配されます。平成26年11月だったでしょうか、出張に行ったときにお話をさせていただいているのは東京青果さんという日本一の取扱量を誇る青果家さんですが、「今年の極早生は悪かったね。この極早生にひっぱられないといいけどね。」というお話がありました。市場からすると品質。いっぺん食べて悪かったら買わない。柑橘全体が影響受けてしまう。紅まどんなは何がライバルなのかというと柑橘がライバルじゃないんですよ。ほかのデザートがライバルです。時季が違いかもしれませんが、静岡の有名なメロンやイチゴ、時季によってはマンゴーなどの日本中の名だたるデザート、果物との競争なんです。だから品質にぶれがあるなどという話だと土台相手にしてくれません。ですので、「必ず光センサー選果機を通していきますから安心ですよ。」と言った

ら、市場の人は品質のぶれがないとほっとします。東京の市場はかなりシビアです。皆さんが、紅まどんなどという名前を使いたいというのはよくわかるんですが、そういう市場の現状があることをご理解いただいたらと思います。せっかく島に来させていただいているので、皆さんに聞きたいのですが、行政だけでできることには限りがある、皆さんとやるとまた色々な方法も出てくるかなと思います。出ていかんような工夫をみんなで考えてみたいんです。行政だけでなく、皆さんはまさに身近に感じていらっしゃると思いますが、出ていかんような工夫。「わしらこうするけん、こうやって松山市も手を差し伸べてくれたら、ちいとはうまいことできるがのう。」「こんなことしよ思たんやけど助けてくれまいか。」というようなことが、何かあったら、すぐ発言するのは難しいかもしれませんので、後でアンケートに書いてもらったらと思います。何か皆さんありますか。ね。たちまちはなかなか難しいですよ。出ていかんような工夫。皆さんがまさに島で感じていらっしゃると思うので、我々も策を打っていきたいと思いますし、出ていかんような工夫が一緒にできればと思います。なかなか即答は難しいと思いますから、次にいきましょうか。遠慮なく言ってください。意見交換するために、皆さんの意見を聞かせてもらうために来ました。どうぞお願いします。

【男性】 この中島本島には体育館が7棟あります。趣味で愛媛県のバスケットボールクラブ連盟の会長をやっているのですが、私どもの仲間は体育館が7つもあれば、合宿が1年中できるんじゃないかと申ししておりました。そこで体育館の現状をみますと、きちんと管理されているのがB&G、小中学校の体育館、分校の体育館です。それ以外に自由に使える旧東小学校・南小学校・天谷の体育館の現状ですが、少し前に、ある会で東小学校の体育館に入りましたら、雨漏りしていました。いずれ床が抜けて誰かが怪我でもしたら、行政もびっくりして今後どうするか考えるのではないかなというような現状を拝見しました。神浦の教員住宅も合併当初から再利用をずっと検討していましたが、今回決着がついたので、今後、地域から「利用がどうなるのか。」という質問は出ないと思います。しかし、ほかのところは、このまま施設を放っておいたら、おそらくずっとこのタウンミーティングで意見が出続けると思います。うちの裏にも、幼稚園が廃校になった施設があります。そういう施設を、壊すのか再利用するのかという方向を1年2年のうちに決めなさいとは言いませんが、長期展望できちんと方向性を出していただいたら、住民も「ああいうふうに変ったん。ああ、もう使い道がないからこわしたん。」と納得します。再利用して、ちよっ

と火が使えるような、合宿できるような施設があれば、1年中公募して、色んな方に使ってもらえると思えます。トライアスロンでは有名になったんですが、まちの人が中島に来てスポーツを楽しむというような施設としてもやれるのではないかと思います。市長さんはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 教育委員会事務局からお答えします。

【教育委員会事務局次長】 教育委員会事務局次長の家串と申します。廃校になっている中島東小については、現在も地元利用していただいています。島の中心地に位置していて一定の地域利用も見込まれています。こうした状況を踏まえて地元の方にもいろいろご相談をさせていただきながら、今後の改修を含めた利活用の方針を検討していきたいと思っています。また、中島南小学校については、地域の皆さんに活用いただけるよう開いていますが、使用実績はあまりございません。天谷小学校についても使用実績はほぼなしという状況でございます。この3校とも耐震基準を満たしてはいないものの、今後の利用状況や地域の皆さんと活用の方向性を出しながら、改修を含めて計画を指揮していきたいと考えています。

【市長】 ちょっと教えてください。皆さんが体育館の中で活動したいといたら、どこを利用するのでしょうか。

【男性】 今は、B & Gと東小ですね。

【市長】 東小は、旧の中島東小学校ですね。どういう活動をする人が多いですか。

【男性】 ソフトバレーが多いのと、私が聞く限りではちょっとした集会とか音楽会とか、以前結婚式もありました。

【市長】 雨漏りでけがをされるようなことがあってはいけませんね。わかりました。今、市の中で公共施設マネジメント担当をつくりまして、いろいろと考えています。高度経済成長で人口がどんどん増えていき、日本経済がよくなるときに建てた建物が30年40年50年経つと古くなります。日本全体として人口が少なくなっていくことが分かっていますので、この公共施設をどれだけ持っていくのかを考えなくてはならないんですね。大きく2つあります。一般的な話として考えていただいたらと思います。公共施設を建てると、インシヤルコストという最初の建築費用がかかります。20年30年40年50年持っている、ずっとその間管理費用が必要です。ですので、このインシヤルコストとランニングコストの2つが必要です。例えば、100施設あって100施設全部のランニングコストを払っていくと大変な負担になりますから、集約していくとか、何をどれだけ持っていくのかを考えるために公共施設マネジメントをしてい

ます。そういう中でも考えなくてはいけないと思いますが、やみくもに減らしていくというのではいけないので、皆さんの利用実態もしっかりと教えていただきながら手を入れるところはしっかりと入れていきたいと思っています。

【男性】 先ほどの意見を引き継ぎますが、先ほど言われたように、合併したときに体育館などの空き施設の利用方法をずっと検討してきたと思いますが、10年経ってもまだ何も前を向いて進んでないと思います。先にも言ったように、体育館、校舎のほかにも運動場など、今ランニングコストがすごくかかっていると思います。何か利用する方法はないか。よその県では、移住定住を含めてかれこれ企業の誘致をやっているところが多いです。中島の場合は、今まで通信システムのインフラ整備ができていなかったのですが、今年10月から光通信が全部入り、インフラ整備がある程度できたことで、IT企業などは全国どこであってもインフラさえできていれば誘致できると思います。実際に、徳島県の神山町は企業が来ているので、中島の施設でもそういうものができると思います。定住の意味からも、人口も増えるし、みんなにとってもいいじゃないかと思います。その辺のことを中島町の住民だけでやるとどうにもなりませんから、市で実際にできるかどうか検討してほしいです。今、古民家はどうですかね。その辺のことをこれから始めるということですが、それも含めて、市でももっと力を入れてもらいたいと思います。私らもできるところはどんどん突っ込みます。観光面にしてもできますけど。今いっぱい人が来ていると言っていますが、実際この島の人自体は「え、そうなんですか。」という感じで、情報自体があまり島全体にまで行き届いてないように感じます。里島振興ツーリズムのポスターやパンフレットは、私らのところに一切回ってこん。こっちから「ないんですか。」と言うたら、「はい、ありますよ。」ともらっているのが現状です。もっと島の人自体に普及させてほしいなと思っています。

【市長】 まさにそうだと思います。今、市役所の中で力を入れていこうとしているのが、広報と広聴です。例えば、中島の皆さんのために、島の皆さんに喜んでもらおうとやっているいろいろなことを広報するのですが、市の取り組みが知られていないんです。広聴は、皆さんの声を聞かせていただくという取り組みで、このタウンミーティングもそうです。広報と広聴にもっと力を入れて知っていただかないかなあと思っています。もっと聞いていかないかなあと思っていますところ。平成24年の8月、3年前に島しょ部の空き家調査をさせていただきました。空き

家の状況把握や課題をピックアップする。実際に「空き家を貸してもいいよ。売ってもいいよ。」と回答いただいた方には、借り手や買い手とのマッチングを図りたいと考えていました。ただ、調査で判明した60件以上の空き家すべてが貸してもいいんやけど、「盆暮れには子どもが帰ってくるからその期間は空けてほしい。」「仏壇のある部屋は貸せない。」といった意向があったり、老朽化による改修が必要だったり、風呂がないなどの条件付きの物件でした。中でも「知らない人には貸したくない。」という意向が強かったため、つながっていないというのが現状です。これを言うと、うんうんとうなずいてくださるんですけども。

【男性】 うちらも実際は、ここの世話をする人がやはり島の人間で、「あいつだったらかまんよ。」と言えるような人がほしいんじゃないかと思うんですよ。

【市長】 このように我々の施策を言わせていただいて、「わしらやらたらこういうことができるよ。」と意見を言うていただくというこの意見交換が大事なので、そこを大切にしながらつなげていきたいと思っております。今、インフラのことが出ましたが、皆さん全員がご存知ではないと思っておりますのでご紹介させていただきます。中島地区の島しょ部は採算性の問題から、民間によるブロードバンドの整備が見込めない地域でした。同じ松山市の中で利用環境に違いがあってはいけないので、平成17年に国が進めている事業を活用して無線によって島しょ部を結ぶ高速通信ネットワークというのを作りました。現在、興居島、中島地区の239世帯（4月1日現在）で高速インターネットサービス Wi-Fi や WiMAX が利用できるようになっています。さらに、今年の10月から中島本島だけですが、民間の事業者がスーパーハイスピードタイプのフレッツ光サービスを提供し始めました。市内と同じスピードを持つブロードバンドを利用することが可能になりました。この民間事業者は、すでに企業や学校向けのサービスとして支社と本社を直接つなぐことができる専用通信回線のビジネスイーサ・ワイドを中島・睦月で提供していますのでIT関係者などから島で活用したいというお話があれば、そちらの活用をご紹介したいと考えています。ひとつ進みましたので、これを生かしていきたいと思っています。企業誘致の担当から、松山への誘致、島しょ部への誘致は、実際はこうですよ、会社の声はこうですよとお伝えできることがあれば伝えてもらったらと思います。

【地域経済課長】 産業経済部副部長の中島と申します。どうぞよろしく申し上げます。企業誘致の現状として、1つは通信、今お話にあったインフラですね。IT関係のコールセンターや事務センター、

こういったものを誘致しているのが松山の1つの特徴です。松山市は、比較的早く通信設備が整いましたので、そういう関係で、1回に200人300人という電話対応の社員を雇う電話対応型のセンターを、市内に何社か誘致できたところでした。企業の方は雇用しやすい場所を前提にお話をされるといふことがありますので、そういう面からいくとかなり厳しい。IT、インフラが現状整いつつありますが、そういう状況でも厳しいと感じているところでした。もう1つは、市内の企業の方などが規模を拡大するケースがあります。そういうときに、特に場所は問わないということで、こちらの島しょ部まで来るようなことも考えられるわけですが、そういうときを想定して、平成21年に島しょ部に特化した奨励金制度を作成しました。これは通常、旧松山であれば新規雇用2名以上、資本設備の投資が3千万円以上というかなりのハードルがありますが、それを島しょ部であれば新規雇用1人、資本設備の投資1千万円以上と助成対象になる条件を下げて、島しょ部に促すように誘致をさせていただいているところでした。今までの実績として1件あったという現状です。

【男性】 それはコールセンターの話ですか。

【地域経済課長】 最初に申し上げたのがコールセンターの話です。

【男性】 その場合、助成制度とか、そういうものがあるということですか。

【地域経済課長】 最初に申し上げたのがコールセンター、事務センターの話で、後半に申し上げた奨励金の制度があるのが、通常の規模拡大による工場や一般的な企業です。

【男性】 コールセンターは対象ではないと。

【地域経済課長】 そうですね。雇用が2名のところが1名になるというのはこの対象ではありません。

【男性】 わかりました。

【男性】 先ほどの民泊の件ですが、10日前だったか、実際に大島で民泊をしている私の知人からのはがきで、民泊を始めたから来てみないかということで、私も仕事からどういふことで知人が始めたのか行ってみたんです。1回目はちょっと様子を聞きに行つて、ここやったらいいなと思つて、また一週間後に松山の友人を誘つて泊まりがけで行つたんです。その方は、家は大島にあるんだけど、親戚が来たりするのにうちの家では狭いから、ちょうど空き家を売りに出しているのがあつて安く買ったんだと言つていました。それで、改造しようと大工さんに言つたら、何百万もお金がいるといふので、こつこつと自分で改造して一軒家を民泊できる

ようにしたんです。半年かかったんよと言っていました。お客さんが泊まっても困らないように、自分でできることは自分でしたんだと言っていました。その人が器用というか、やろうと思うからできたんだと思います。外国人も今頃は家に来るんよと言っていました。ほかの人に聞いたら、今日本に来る外国人が興味を持っているのは、柔道、忍者、空手でそういう服を着たり、教えてもらったりすると、帰ってからいいところだったと言ってくれる。歴史も含めて、そういうことに興味のある外国人はいっぱいいるんだと。そういう人が今来るようになったんよということをほかの人から聞いたので、その人の部屋をみると、ふすまを張り替えて、昔の浮世絵みたいな部屋も作っていました。大島では、そういうこともやり始めているし、ちょうど今、サイクリングが流行っているので、その置き輪もつくっていました。ということは、実際個人でもそういう考えで動き出したなど。だから中島でもできるんじゃないかと。参考にして、誰かとまたそういう話があったら教えてあげようかと。今、そういう話が出たので例があるということをお知らせしておきます。

【市長】 例を挙げていただいております。ありがとうございます。

【女性】 先日は東体育館を利用させていただきました。ありがとうございました。まず、先ほどからの皆さんのお話を聞かせていただいて定住促進といっても、イコール仕事先で、やはり年金生活者だけではないので、皆さん方のお話にもあったように、これが大変難しいんですね。私は、9年前に一人でぶらぶらと探しに来ました。空き家はいっぱいありました。でも、あんたは誰かというところから始まりました。ですから、空き家バンクや定住促進などの若い人じゃないとできない部分は当然そうでしょうけども、やはり地元の人を生かす、地元の方の自立を促す、そういう意味においても、地元を本当によくわかっている方で、人のお世話が好きな方、そういう方をお願いして、それを推進していく。そしてそういう人たちならば、年間を通じてどういう仕事があって、これだったら年間どれぐらいなので、誰やらさんのところに行ってみなとか言えると思います。そういうことも含めて、地元の方を生かす方法を考えていただけたらいいんじゃないかと思います。私は10年いますが、こんなにすばらしい中島はないです。だから、余計に本当に中島の人を生かしていただきたいし、それで、若い方が入ってくれば、非常にありがたいなど。仕事先と空き家バンクにしても生かしてほしいです。

【市長】 私から。荒唐無稽かもしれませんが、今、中島支所では、島のことは綱場支所長がよくわかってくれていて詳しいと思いますが、お話を聞

いてから特に考え出しているんですけれども、やはり空き家のマッチングにしても誰にでも貸せるわけではない、信用がないと貸しにくいなど。今、お話を聞きまして、島の人って、あの人は前は元気でいっぱい柑橘をつくっていたけど、大分しんどくなっているよ。それを、例えば誰かが入ってきて、その人が助けてくれるんやったら、ある程度収入も見込めるし、農業のノウハウもわかっているし、力がある部分はその若い人がヘルプをしていくというマッチングができないと机上の空論で終わってしまうのではないかなと特に感じました。市役所の職員はどうしても例えば22歳から60歳までずっと中島にいますというわけにはなかなかいかないところがありますので、荒唐無稽かもしれませんが、島の方々に「マッチング隊」みたいなものをつくっていただいて、報酬とかそういうことについてはまた考えさせていただいたらと思うんですが、例えば10人とかマッチング隊みたいなものをつくったら、もう少し空き家の紹介や空き家と仕事のマッチングがやりやすくなるのかなと思ったんですけど、いやいや市長違うぜというのだったら言うていただきたいし、どんなものですかね。

【男性】 地域おこし協力隊は、今成果があるんですか。愛媛県で50何人いると聞いたが、そのうち松山市に何人いるのか。

【市長】 地域おこし協力隊の説明をしてもらっていいですか。

【地域振興担当課長】 地域おこし協力隊は国の制度で、先ほどおっしゃっていただいたとおり、県内には入ってきていますが、松山市はまだです。今、検討をしまして、ご存知のとおり都市部とか、政令指定都市とか、東京圏とか、そういった若者を地域に受け入れて、新しい担い手として頑張っていただくという制度です。これは松山市も検討しています。

【市長】 地域おこし協力隊だと少ないんですよ。例えば、10人中島に住みたいと思っても、地域おこし協力隊だと少ない人数になってしまうので、皆さんにうまくご協力いただくともうちょっとマッチングが進むのかなと思います。「いやいや市長違うよ、それだったらこういう難しいところがあるよ。」ということがあったら教えていただきたいんですが、どうですか。

【男性】 何人かのグループになる形があれば、多分前を向いて進むんじゃないかと思いますよ。

【市長】 マッチングリーダーを1人つくると、その人に責任が重くかかってしまってしんどいでしょう。それだったら隊にしてやったほうがいいでしょうね。

【男性】 今、言われたように信用あるこまめな人に来てもらったらうまくいく場合もありますね。

【市長】 移って来られた人としてそのあたりどうですか。

【男性】 私は、移住・定住は二の次に考えたんですね。まずは知っていただく。一応、松山市のホームページにも、私が住んでいる島に泊まれるよと載っているようですが、施設がありません。公民館はありますが、公民館は風呂もありません。汚いシャワー室くらいです。それとご飯も食べる場所がありません。食べるものを売っているところもほとんどない状態です。そういうところに移住・定住なんて誰が考えるかなと。ものすごくいい家ができて私も行きたくないですね。今、教員宿舎が2棟あるんですが、睦月小が休校になってからは、朽ち果てるままです。市のものですから、これをちょっと整備して、きれいにしてあげれば、例えば泊まりたい人がいたら、そこに行って、風呂に入れますし、家族で遊びに来られます。それで島を知っていただき、それから移住・定住の話じゃないかと思うんですけど。知らない人にマッチング云々もありますが、まずそこからのほうがわかりやすい気がします。

【市長】 ありがとうございます。皆さんにちょっとお尋ねします。神浦の教職員住宅を変えさせていただいて、お試し移住施設になりました。中の間取りがどうなっているかご存知ないですよ。家賃がいくらかご存知ないですよ。皆さん、神浦の教職員住宅をリニューアルしましたが、「中を見ていただけますか。」ってお願いしたら、見ていただけますか。もちろんオープンにしますから中を見てくださいます。2DKが家賃2万円です。3DKが2万5千円です。都市部から考えると格安だと思いますが、皆さんは、中がどんなになっているかご存知ないですよ。広報・広聴に力を入れるということで、また中を見ていただくことも考えたいなど。中を見ていただいたら、皆さんの口を通して広がることもあると思いますので、そのことも考えさせていただきたいと思います。

【女性】 先ほどの、定住、お試し移住住宅の件で、先ほどちょっと友達の家でいろいろと話していたんですが、1カ月から1年間という期間限定の家というのは、基本的に家族が住める家ですよ。その家族が住めるような住宅に1年間限定で引っ越しをしていくという考え方はどうでしょうか。お試しだから1年間で準備をして定住し、次の人に来てもらうという考え方もあるのですが、例えば、次の移住者がまだ決まっていないような状態の場合は要相談とか、もう少し延ばしてほしいとか、仕事の面で自分たちがどうしたいとかいう意見は必ず出てくると思うんです。1年間限定というだけで二の足を踏む人たちもいるし、家族で引っ越してくる場合、引っ越しの手間がどれほど大変か。そういうことも考慮したら、

もう少し柔らかく対策を取るという方向もあるのではないのでしょうか。

【地域振興担当課長】 神浦につきましては、1年間限定で最長1年間と  
しています。そこで、今度構築します里島空き家バンクとの組み合わせに  
なってくると思います。さすがに家族で移住となりますと、確かに1年間  
というのはとても短い期間になりますが、空き家バンクでしたら、今度は  
売買もありますし、貸し借りもありますので、うまく定住促進住宅と空き  
家バンクを使ってほしいです。

【女性】 それもあわせてお願いします。そうやって、繋がっていけばい  
いんじゃないかなと思います。

【地域振興担当課長】 短期間用に促進住宅があって、定住を決められた  
方には里島空き家バンクという形でうまく連動させたいと考えています。

【女性】 お世話になります。定住や移住は、島の魅力を感じて島にやっ  
てきてくださるんですけど、来るという方は大体色んなことを考えて来る  
わけですね。そこに仕事があるかどうかを勉強してくると思うんです。  
だから、仕事があるかどうかは置いておいて、まず、島の中でどういう魅  
力があるかとか、そういうことを島の人たちがわかってないと、うまく伝  
えられないと思います。先ほど市長が出ていかない工夫とおっしゃられま  
したが、今農業が低迷しているので、移住してこられている方はすごく若  
い方で、私たちにとってはすごく未来がある。あの人たちが本当に希望な  
んですよね。若い方が入ってくれて、島の農業を支えてくれるってすごい  
魅力だと思うんです。だから、若い人たちを地域の私たちが支えてあげた  
いんですけれども、そういうコミュニティがないんです。みんなで集まっ  
て何かするというのもないし、私たちの知らない人がどんどん増えてく  
るという感覚です。昔の島は、島の中の人たちはみんな知っていたんです  
が、今は知らない人がたくさん増えていて、どこの誰かわからないという  
感じなんですよね。昔は「ばんざい祭り」をはじめ大運動会やお祭りなど、  
島の方たちが老若男女みんな集まってする色んな行事があって、情報が回  
っていたんですけど、今は知らない人が何かしているなという感じで見  
ているんです。だから、力になってあげたいけれども、遠くから見ていると  
いうこともあるんじゃないかと思うんです。農業される若い方も、今その  
人たちがグループで何かをすとか、組織をつくってないものですから、  
私たちが手助けをしてあげることもできない。だから、愛媛県の中予地方  
局の普及指導員の方たちにも要望もしているんですけど、若い人がグル  
ープで活動をしようといったときに、予算的な措置をして助成をしていただ  
ければ、もっと私たち島の人とその新しい人たちと一緒に何かやれ

るようなことがあるんじゃないかなと思いますのでどうぞよろしく願  
いします。

【市長】 コミュニティをつくるときの助成は市民部ですかね。

【市民部長】 市民部の唐崎と申します。よろしくお願いたします。今  
おっしゃられた、外から島に入っ  
てこられている方々となかなか接点がない  
というところですが、中島地区にはまちづくり協議会が早くからできてい  
まして、島全体についてのことを検討する機会がありますし、私ども市民  
参画まちづくり課の職員も担当がついていますので、そういった課題につ  
いても協議会の中で話をしながらどういった方法がとれるかを会で協議  
していただくということではいかがでしょうか。

【市長】 我々もそうなんです。つながりがないよりはつながりがあつ  
たほうが絶対いい社会なので、つながりをつくっていろいろとさまざまな策  
を打っているところです。そういうことでまちづくり協議会があるので、  
遠慮なく言っていただいて、まちづくり協議会さんに丸投げではなくて市  
役所の職員の担当もいますので、その中でいろいろと話をさせていただいた  
らと思います。

【男性】 今、中島の人口動態は高齢化率が60パーセントを超えていま  
す。人口は4千人ちょっとですね。6つの島に17集落ありまして、高齢  
者ということで老人クラブの件でございます。今、私は老人クラブの会長  
をしているのですが、非常に困っているのはクラブが消滅している神和・  
津和地・元怒和・上怒和・二神・睦月・野忽那で、島は6つですけれど5  
つの島に老人クラブがない状況だということです。先ほどコミュニティを  
つくるといいうことが出ていますが、以前の中島町では全部の地域に老人ク  
ラブがありました。それで加入率も100パーセントでした。そのような  
状態ですから、先ほどありましたように蟻が掘った小さな穴でもわかるぐ  
らいつながりがあったと思っています。コミュニティもうまくいっていた  
と思います。この中島全体を考えたときには年齢を重ねても「ああ、中島  
に住んでよかった。安心で楽しい。」というのが最後の望みだと思ってい  
ます。今、若い人は仕事が大変ですので奉仕活動やお付き合いは廃れてい  
ます。高齢化率が60パーセントを超えながら老人クラブができていない  
ところが今のように多いという状況で移住とか定住とか言われても、先ほ  
どありましたようにうまくいかないのではないかと思います。まずは、  
中島に住んでいる高齢者が楽しくやっていたら、おのずと住んでみようか  
なと思うのではないかなと思っています。そういうことで行政の方にお願  
いをしたいのですが、老人クラブができていない地域を行政の力で推進を

していただきたい。松山市と合併をして10年になりますが、全国的には老人クラブの結成、会員の増強100万人ということで、愛媛県は11万人ということで進めています、中島の場合は逆に廃れていっている。現在は中島の11の地区に1,065人の会員が入っていて、以前は加入率が100パーセントだったんですが今は60パーセントです。そのような状況になっています。そこら辺も行政の方に力を入れていただきたい。特に、中島は島ですからちょっとした移動も運賃が必要なんですね。そのようなことでなかなか大変だとは思いますが、結成されている老人クラブだけがよかったらいいというものではないと思いますので、担当は高齢福祉課になるんでしょうけど進めていただければと思います。

【市長】 今日タウンミーティングで聞かせていただいて、「もうちょっと皆さん、自分たちの島に自信を持っていいですよ。」というのが私の思いです。この前、松山市の友好都市である平澤市で平澤港マラソンというのがありまして、10キロのマラソンを平澤市長と一緒に走ってきました。同じタイムでフィニッシュすることができて、同じしんどいことをしましたので絆が非常に深まったと思っていますのですが、平澤港マラソンの前に走らせてもらったのが中島のトライアスロンです。本当に皆さんにはお世話になりありがとうございました。暑い中におじいちゃんおばあちゃんに部屋から出てきてもらって、島の人みんなに道に出てきてもらって応援してもらいました。申しわけないけれど、平澤港マラソンで沿道に出ていた方は15人ぐらい。文化が違うのかもしれませんが、あれだけ多くの方が応援をしてくれるというのは、皆さんは当たり前になっているかもしれませんが、ものすごい財産だと感じました。私は、前の仕事で中島に何回も来させてもらっていますが、すばらしいと思っているから、ここに住みたいと思った人が住み続けられるようにということで船賃の補助も始めさせていただきました。平成22年11月の選挙のときですが、「松山の病院に行って帰ってくるのに1万円ぐらいかかるんがたまらんのよ。」というおじさんがいて、横にいた奥さんが「そりゃあんた、松山で飲んで帰るけん1万円いるんよ。」と言われた方がいました。そんな話がありましたけれども船賃の補助も始めさせていただきました。透析患者・妊婦さん、すべての診療科目がそろっているわけではありませんからね。中島はどうでもいい、島はどうでもいいと思っていたら、こういう策はしないです。やはり中島、島しょ部を大事にしていきたいと思います。「松山に移住してきよるん？」という声に対して、今年の4月から転入してきた方に任意のアンケートを1年間の予定で実施していますのでデータを披露します。アンケートに協力いただいた方で転勤・進学以外で松山に転入してきた人

は、4月～8月で211人もいました。転勤で入ってくる方は当たり前にあります。通学で入ってくる人もいるでしょう。でもそれ以外で211人もいました。やはり気候が温暖という理由が多いですね。NPO法人「農音」さんの関わりで中島へ移住された方はこれまでに30人を超えたとお聞きしています。今日、紅まどんなのセールスについてお話をさせていただきましたが、東京の大田市場に持って行ってどんどん売れるような品物が採れるところですよ。前の仕事で愛媛県の色んなところに行かせてもらいましたが、うちの市にはうちの町にはうちの村にはこれといった産業がなかなかないんですよというところがあるんですよ。でも、東京の市場で喜んで流通される品物があるのはやはりすばらしいところだと思います。島に修学旅行生もやって来ている。皆さんもおもてなしができる「宝」はいっぱいあると思うので、皆さんは自分たちの島のことを過小評価しすぎではないかなと思います。もうちょっと自信を持っていただいてもいいんじゃないかなと思います。若者の田舎暮らし傾向があり、内閣府が昨年6月に実施した農村漁村に関する世論調査では、都市住民の約32パーセントが農村漁村地域への定住願望があると答えています。平成17年の調査の21パーセントから大幅に増えています。その中でも20代の若者の移住希望が38.7パーセントと一番高くなっています。全国の20歳以上の人口は1億人。農村漁村への移住希望は4パーセント。400万人の方が農村漁村への移住を希望しているということになります。ですから全国の流れとしても農村がまったく興味もありませんよというところではないので、もうちょっと自信を持っていただいてもいいんじゃないかなと思います。先ほど「まつやま婚ツアー」のことで、女性の定員10名に対して39名もの女性の申し込みがありました。興味があるんです。ですので、皆さんにはもうちょっと胸を張っていただいてもいいのかなと思いました。それと我々がやっている策が上滑りにならないように、皆さんももっと協力をしながらやっていくとよりいい効果が出せるのではないかなと思いました。

【男性】 今年副総代ということで、事務所に座ることがあるんですが、うちの島は旧中島町の中でも特に高齢化率の高いところで、事務所におばあちゃんやおじいちゃんが松山市から送られてくる封筒をそのまま持ってきて、事務員さんに「これわからんのやけど、出しとってや。」と言ってくるんです。というのも、まず松山市から送られてくる文書の字が小さいということ。それで、もう始めからおじいちゃんおばあちゃんは読む気がないということになります。もう1点、先ほどの医療費の補助について

ですが、うちの島もやはり高齢化のためかなりの数の人が領収書を持って事務員さんのところに来るんですよ。それももう自分で書くことができず、また書いたとしても間違いがあったら市が受け付けてくれないということで、そのまま領収書を持ってきて「これやっとしてや。」という感じでおじいちゃんおばあちゃんが持ってくるんですよ。ということは事務員さんの仕事が、中島に来る以外にも地元でもものすごく多くなってきています。しかし、うちの島は人口が減ってきて地区費もだんだん下がってきた中で、事務員さんの給料を払っている関係で、長い間努力していただいている事務員さんに対しても給料を上げるどころか下げなければいけない状態なんです。だから、本島なんかは医療費の補助を個人で支所に持っていけばいいことですが、離島は特に事務員さん、つまり連絡員さんがいる関係もありまして、そういったことについて松山市も月に一度市の職員を送るなり、また連絡員さんの特別手当を上げていくとか、そういった方向にいかないものかなという意見です。

【市民部長】 市民部でございます。ご質問ありがとうございます。ご質問をいただきました行政連絡員さんの手当てについてですが、言われるように近年の高齢化の進展もそうですが、事務が増えているということは認識しています。この制度は当然これからも継続は必要だと考えていますし、手当てにつきましても財政状況が厳しい中でございますけれども、業務内容と適正な報酬額になるよう見直しを検討していきたいと考えています。以上でございます。

【市長】 見直しを検討させていただきます。ありがとうございます。

【男性】 以前はカラマンダリンのことでいろいろありがとうございました。実はちょっとお聞きしたいんですが、中島でみかんをつくってみたいというお問い合わせは、都会から松山市にあるんでしょうか。

【農林水産課長】 産業経済部副部長の中田です。直接的には聞いていないんですが、先ほど申しました青年就農給付金などの就農の問い合わせと一緒に柑橘をしたいというご希望の方はおられたと、担当からは聞いていますが、中島地区に限った話は直接的には聞いていません。

【男性】 今すぐのことではないんですが、僕も一代限りの百姓ですが、せっかく中島で「紅まどんな」にしても「せとか」にしても「カラマンダリン」にしてもかなりいいものが採れるわけです。一代限りでこれを終わらしてしまうのはどうかと。例えば、本当に農業をしたい、中島でしてみたいという方が都会におられたら、僕の考えとしてはその方に継いでいただきたい。自分は子どもがいますけれども、娘で独立しています。農業す

る跡継ぎではありません。できましたら、そういう方にバトンタッチして、もちろんすぐというわけにはいきません。僕と一緒に農業しながら継いでいっていただけたら僕としてはそれがこの島を守る意味では最高の方法じゃないかと今は考えています。以上です。

【市長】 横文字ですみませんが、マッチングとって、やはり若い人が一緒にやりたいですって言うてくれると、若い人に技術の伝承もできるしこの人やったらって人物も見極めることもできると思いますので、そういうきめ細かいところが必要だと改めて感じました。そろそろ締めさせていただきます。と思います。「イノシシ」のことをかねてから皆さんに聞いていますが、有害鳥獣捕獲許可の条件として、現在捕獲後は原則として埋めていただく処理を行うことになっています。しかし、島しょ部の中島ですから、埋める場所もある程度限られていると思います。埋めることに適した場所が限られているのでクリーンセンターでの試験焼却を実施しているところです。今後も焼却可能な重量などを見極めて可能なものから焼却処理を実施していきたいと考えていますので、皆さんから言われていることをほったらかしにするのではなくて、これからはもしっかり受け止めて、今日皆さんからいただいたご意見は庁内で検討させていただいて1カ月半ぐらいになろうかと思いますが、また回答をお返しさせていただきますので、それからまた意見交換を続けさせていただいたらと思います。さまざまなご意見をいただきました。今皆さんのつながっていく場所として、体育館でレクリエーション・バレーボールなんかをしていただくのもまた色んな世代がつながっていく方法かなとも思いますので、その体育施設もどうあるべきかを考えさせていただけたらと思います。今日はさまざまなご意見をいただき、ありがとうございます。最後に、私の島に対する思いですが、市民の中には、やはり口の悪い人がおいでて、「52万市民の中で中島の人口は何パーセントですか。」って言われたことがあるんですよ。でも私は、松山も大事なことやし、北条も大事なことやし、中島や色んな島がありますが、自分にとって大事なことです。ですから、こうやって皆さんの意見を聞いていきたいと思ひますし、これからは意見交換を大事にしていきたいと思ひます。どうせ市役所に言ったって変わらへんけん、とか思わずに、市役所は、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければいけないと思ひますので、必ず、調査して調査の内容はしっかりと次に生かしていきたいと思ひますので、これからはまたお力添えをいただけますようよろしくお願ひいたします。今日はどうもありがとうございます。

— 了 —